

土木学会平成19年度全国大会
研究討論会 研-16 資料

建設工事のマネジメント業務への CM方式導入の必要性と将来性

座長	山本 幸司	名古屋工業大学
話題提供者	小林 康昭	足利工業大学
	笹森 秀樹	国土交通省
	諏訪 博己	前田建設工業(株)
	山下 幸弘	(株)建設技術研究所

日時 平成19年9月14日(金) 13:00~14:30
場所 広島大学 東広島キャンパス
総合科学部 K107

建設マネジメント委員会

研究討論会主題：

現在、我が国では国土交通省を中心として、CM方式による公共事業の発注が試行されており、その有効性や本格的な導入可能性に関する検証に着手している。しかし、公共工事へのCM方式導入に際しては、対象とすべき工種や工事規模に関する検討等、いまだ解決すべき課題が多いのが実情である。また民間企業においても、CM方式の位置付けや市場性の検討、あるいはCM業務に対する発注者の実績評価方法等がこの分野へ参画するための大きな判断材料になるものとする。

本委員会は、公共事業におけるCM方式試行の実態と課題、及び今後の展望について早急に検討する必要があると判断し、CM方式の必要性とその将来性について話題提供者とともに討論する。

座長：

土木学会建設マネジメント委員会 マネジメント業務評価研究小委員会
小委員長 山本幸司（名古屋工業大学大学院 教授）

話題提供者：

足利工業大学 教授	小林康昭
国土交通省大臣官房技術調査課 建設技術調整官	笹森秀樹
前田建設工業東京支店 所長	諏訪博己
建設技術研究所マネジメント事業部 副事業部長	山下幸弘

進行スケジュール：

1300～1310	趣旨説明、パネラー紹介、小委員会活動紹介	山本幸司
1310～1325	CM方式の本格導入・推進のための課題	小林康昭
1325～1340	国交省の入札制度改革とCM方式への取り組み	笹森秀樹
1340～1350	ゼネコンの立場からのCM業務の実態と課題	諏訪博己
1350～1400	コンサルの立場からのCM業務の実態と課題	山下幸弘
1400～1425	質疑応答	
1425～1430	とりまとめ	山本幸司

話題提供者 小林康昭

1963年 早稲田大学卒業、大成建設入社

現在 足利工業大学大学院教授（都市環境工学専攻主任）

内閣府 PFI の入札契約制度検討委員会、国土交通省土木施工管理技術検定委員会、同総合評価方式活用検討委員会、栃木県公共工事技術評価委員会、足利市入札適正化委員会などの委員長・座長・委員などを歴任している。

話題概要：

公共事業に CM 方式を導入して推進するための課題について述べる。特に発注メリット、ビジネス要件、市場制度、人材などの面からの課題を明らかにする。

話題提供者 笹森秀樹

1984年 東北大学卒業、建設省入省

現在 国土交通省大臣官房技術調査課 建設技術調整官として入札契約制度を担当している。

話題概要：

国土交通省では公共事業調達において、「競争性・透明性の向上」、「品質の確保」、「不正行為の防止」を基本として入札・契約制度改革を推進し、その一環として多様な入札契約方式を試行している。ここでは、CM 方式が従来、発注者もしくは施工者が実施してきたマネジメント業務を CMr に担わせ、工事品質を確保する方策であることを再確認する。

話題提供者 諏訪博己

1979年 早稲田大学卒業、前田建設工業株式会社入社

現在 東京支店 砂町作業所長（現場代理人）

国土交通省初の本格的 CM 方式である美濃関ジャンクション CM 業務や、その後発注された信濃川築堤 CM 業務のプロポーザルや受注後の現場支援の主担当として従事した。

話題概要：

ゼネコンの立場からの CM 業務の実態と課題について述べる。当社が受注した国土交通省初の本格的 CM 方式である「美濃関ジャンクション業務」、その後の「信濃川築堤監理 CM 業務」の実態及び、CM 導入の効果や課題について、ゼネコンの立場から意見を述べる。

話題提供者 山下幸弘

1981年 神戸大学卒、(株)建設技術研究所入社

現在 マネジメント技術部副部長

胆沢ダム本体工事監理試行業務に CMr 主任技術者として従事し、常駐監理により、設計照査、現場管理、工事間調整を行ってきた。

話題概要：

当社が国土交通省から受注した胆沢ダム CM 業務の概要（実施体制、CMr の業務内容、CMr の権限と責任、報酬等）について述べ、建設コンサルタント会社の立場から今後の検討課題を整理する。

座長 山本幸司

1971年 京都大学大学院終了、京都大学助手

現在 名古屋工業大学大学院教授

土木学会建設マネジメント委員会 マネジメント業務評価研究小委員会委員長。国土交通省総合評価方式活用検討委員会、建設省中部地方整備局(当時)、名古屋市、名古屋港管理組合等の入札監視委員会委員を歴任している。

建設工事のマネジメント業務分析とフィーのあり方 に関する調査研究報告書

土木学会建設マネジメント委員会
マネジメント業務評価研究小委員会

目 次

はしめに	1
1. マネジメント技術の必要性	2
1. 1 対象とするマネジメント技術の範囲	2
1. 2 マネジメント技術のニーズ	3
1. 3 マネジメント技術のシーズ	7
1. 4 ヒアリング・検討対象の事例	10
2. マネジメント技術活用方式（CM方式）の導入事例に対する検討	11
2. 1 CM方式試行業務	11
2. 2 マネジメント技術活用方式（CM方式） の試行結果における課題の整理	42
2. 3 建設事業のマネジメント特性とマネジメント 技術活用方式（CM方式）の適用性	45
2. 4 ロックフィルダム工事で試行している マネジメント技術活用方式（CM方式）	52
3. マネジメント業務の評価と対価の考え方	56
3. 1 業務委託契約の義務と責任	56
3. 2 CM業務に対する費用算定の事例	63
3. 3 CMRフィー積算の考え方	67
3. 4 マネジメント業務成果の評価とインセンティブ	69
4. マネジメント業務実態調査	79
4. 1 マネジメント業務実態調査の必要性	79
4. 2 調査対象工事	80

4. 3 調査結果と考察	81
5. マネジメント業務評価方法の提案	107
5. 1 マネジメント業務の範囲	107
5. 2 CMR 業務費の積算基準のあり方	115
5. 3 CMR フィーのあり方	117
6. 本研究のまとめ	128
あしがき	130
用語説明	131

【資料編】 マネジメント業務分析とフィーのあり方に関する参考資料

1. 調査データ	資料-1
----------	------